

2026年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年9月14日

上場会社名 アートグリーン株式会社 上場取引所 名
コード番号 3419 URL <http://www.artgreen.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 豊
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部部長 (氏名) 阿部 唯明 (TEL) 03-6823-5926
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年10月期第3四半期の連結業績(2025年11月1日～2026年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年10月期第3四半期	2,042	6.0	35	△8.2	34	△6.4	20	△3.5
2025年10月期第3四半期	1,927	△0.2	38	△31.3	36	△33.4	21	△30.5

(注) 包括利益 2026年10月期 第3四半期 21百万円(△1.5%) 2025年10月期 第3四半期 21百万円(△30.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年10月期第3四半期	17.35	—
2025年10月期第3四半期	17.98	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年10月期第3四半期	1,309	546	41.8
2025年10月期	1,419	525	37.1

(参考) 自己資本 2026年10月期第3四半期 546百万円 2025年10月期 525百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年10月期	—	0.00	—		
2026年10月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年10月期の連結業績予想(2025年11月1日～2026年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)								
	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,565	2.1	23	56.8	15	21.4	3	△9.4

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年10月期 3 Q	1, 171, 600株	2025年10月期	1, 171, 600株
② 期末自己株式数	2026年10月期 3 Q	291株	2025年10月期	291株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年10月期 3 Q	1, 171, 309株	2025年10月期 3 Q	1, 171, 354株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(重要な後発事象)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(企業結合等関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善等を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で物価上昇や原材料・エネルギー価格の高止まりに加え、米国の政策動向や緊迫する中東情勢などの影響から、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

花き業界においては、東京都中央卸売市場の市場統計情報によると、2026年5月から7月までの、らん鉢取扱金額は863百万円（前年同期比7.3%減）、数量では208千鉢（前年同期比8.7%減）と、いずれも前年同期比微減傾向で推移いたしました。

このような事業環境の中、フラワービジネス支援事業は、主力である法人贈答用胡蝶蘭の新規顧客開拓及び既存顧客への販売促進とオフィス緑化の提案に注力いたしました。ナーセリー支援事業におきましては、既存顧客に対する販売促進と新規顧客開拓に注力いたしました。フューネラル事業におきましては、既存顧客及び業界関係者との情報交換を通して、柔軟なサービスの提案に注力いたしました。

全体としましては、物流費や人件費の上昇に加え、資材価格の高止まりが影響し、収益を圧迫しましたが、オフィス緑化やフェイクグリーンの売上は計画通り順調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,042,886千円（前年同期比6.0%増）、営業利益35,441千円（前年同期比8.2%減）、経常利益34,278千円（前年同期比6.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益20,325千円（前年同期比3.5%減）となりました。

なお、当社グループの事業セグメントは単一セグメントであるため、セグメント情報は記載せず、主要な事業について記載しております。

（フラワービジネス支援事業）

フラワービジネス支援事業につきましては、主力である法人贈答用胡蝶蘭の新規顧客開拓及び既存顧客への販売促進とオフィス緑化の新規提案に注力いたしました。特に近年職場環境の改善・快適化に向けた意識の高まりから、オフィス内に観葉植物やフェイクグリーンを取り入れたオフィス緑化案件が増加し、売上高は堅調に推移いたしました。

以上の結果、フラワービジネス支援事業の売上高は1,460,875千円（前年同期比10.9%増）となりました。

（ナーセリー支援事業）

ナーセリー支援事業につきましては、既存顧客に対する販売促進と新規顧客開拓に注力いたしました。原材料やエネルギー価格の高止まりが続く中、既存顧客への販売価格の改定交渉を慎重に進めるとともに、新たな仕入先の選定、原材料の見直し等も慎重に進めました。

以上の結果、ナーセリー支援事業の売上高は419,173千円（前年同期比2.5%減）となりました。

（フューネラル事業）

フューネラル事業につきましては、既存顧客及び業界関係者との情報交換を通して、柔軟なサービスの提案に注力いたしました。

葬儀業界全体の環境としましては、大都市圏を中心に家族葬や密葬、葬儀の小型化が増加しており、全国的に葬祭規模は縮小傾向が続いております。

このような環境下、当社は既存顧客をはじめ、花卉市場や葬儀業界関係各社とのコミュニケーションを通して、今後ますます多様化していく葬儀形式や顧客のニーズに合わせた柔軟なサービスの提供が必要と考え、お客様の求めるサービスの提案に注力いたしました。しかしながら、原材料やエネルギー価格の高止まりに加え、物流費の上昇から輸入商品の減少、さらに国内生産者の減少等の影響を受け、売上は前年を大きく下回る結果となりました。

以上の結果、フューネラル事業の売上高は162,837千円（前年同期比19.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,309,845千円となり、前連結会計年度末と比べ109,267千円減少しました。

流動資産は1,112,594千円となり、前連結会計年度末と比べ84,054千円減少しました。その主な要因は、現金及び預金が48,629千円、仕掛品が31,265千円それぞれ減少し、貸倒引当金が△3,423千円増加したことによるものであります。

固定資産は197,250千円となり、前連結会計年度末と比べ25,213千円減少しました。その主な要因は、のれんが4,049千円、無形固定資産のその他に含まれておりますソフトウェアが9,566千円、投資その他の資産のその他に含まれております繰延税金資産が5,991千円それぞれ減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は762,884千円となり、前連結会計年度末と比べ130,430千円減少しました。

流動負債は449,810千円となり、前連結会計年度末と比べ6,380千円減少しました。その主な要因は、その他に含まれております未払消費税等が17,530千円、その他に含まれております有償支給取引に係る負債が5,046千円それぞれ増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が9,351千円、賞与引当金が11,343千円、株主優待引当金が4,115千円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は313,073千円となり、前連結会計年度末に比べ124,049千円減少しました。その主な要因は、長期借入金が119,749千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は546,960千円となり、前連結会計年度末と比べ21,162千円増加しました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益20,325千円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年10月期の業績予想につきましては、2025年12月12日に公表いたしました通期の連結業績予想から、修正は行っておりません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予測数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	674,263	625,634
受取手形及び売掛金	334,862	339,123
商品及び製品	34,977	33,883
仕掛品	122,125	90,859
原材料及び貯蔵品	1,315	1,261
その他	37,603	33,754
貸倒引当金	△8,499	△11,923
流動資産合計	1,196,648	1,112,594
固定資産		
有形固定資産	33,733	29,550
無形固定資産		
のれん	21,023	16,973
その他	43,331	32,396
無形固定資産合計	64,354	49,370
投資その他の資産		
その他	147,895	141,849
貸倒引当金	△23,519	△23,519
投資その他の資産合計	124,375	118,329
固定資産合計	222,464	197,250
資産合計	1,419,113	1,309,845
負債の部		
流動負債		
買掛金	109,784	111,340
1年内返済予定の長期借入金	224,395	215,044
未払法人税等	5,620	5,148
賞与引当金	22,351	11,007
株主優待引当金	4,115	—
その他	89,925	107,270
流動負債合計	456,191	449,810
固定負債		
長期借入金	422,131	302,382
その他	14,992	10,691
固定負債合計	437,123	313,073
負債合計	893,314	762,884

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	143,012	143,012
資本剰余金	94,997	94,997
利益剰余金	285,805	306,131
自己株式	△561	△561
株主資本合計	523,254	543,579
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,543	3,380
その他の包括利益累計額合計	2,543	3,380
純資産合計	525,798	546,960
負債純資産合計	1,419,113	1,309,845

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年7月31日)
売上高	1,927,739	2,042,886
売上原価	1,122,131	1,192,194
売上総利益	805,608	850,692
販売費及び一般管理費	767,008	815,250
営業利益	38,600	35,441
営業外収益		
受取利息	763	1,868
受取配当金	88	189
受取助成金	—	1,250
敷金償却戻入益	—	1,738
受取補償金	2,117	—
その他	647	2,846
営業外収益合計	3,617	7,894
営業外費用		
支払利息	4,347	6,030
為替差損	442	301
助成金未交付額	—	1,124
その他	800	1,600
営業外費用合計	5,589	9,057
経常利益	36,628	34,278
特別利益		
固定資産売却益	—	545
特別利益合計	—	545
税金等調整前四半期純利益	36,628	34,823
法人税、住民税及び事業税	13,440	8,892
法人税等調整額	2,123	5,606
法人税等合計	15,564	14,498
四半期純利益	21,064	20,325
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	21,064	20,325

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年7月31日)
四半期純利益	21,064	20,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	410	836
その他の包括利益合計	410	836
四半期包括利益	21,474	21,162
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,474	21,162
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

(重要な収益及び費用の計上)

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する時点）は以下の通りです。

有償支給取引に係る収益認識

買い戻す義務を負っていない有償支給取引について、収益認識に関する会計基準の適用指針（以下、「収益認識適用指針」）第104項及び第179項により、支給品の消滅を認識したうえで支給品の譲渡に係る収益を認識しておりません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社の事業セグメントは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年7月31日)
減価償却費	12,148千円	14,586千円
のれんの償却額	2,311千円	4,049千円

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な会計処理の確定)

2025年5月23日に行われた株式会社アートグリーン溝口造園(現AGランドスケープ株式会社)との企業結合について、前第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴う金額の変動はありません。